

これからの
防災
disaster prevention

西日本豪雨災害被災地（愛媛県西予市・宇和島市） 支援活動

ネクストプログラム：防災士養成プログラムのボランティア活動



2023年7月 交流会に協力してくれたNPOメンバーと共に集合写真



2018年12月
宇和島市吉田町玉津共選場会議室
共選場長から、玉津地区およびみかん農家の
被害状況について説明を受ける参加学生たち



2019年12月
地域イベントの手伝い



2020年10月
被災した園地（みかん園）の復興状況の見学



2021年12月
みかん農家さんと



2022年12月
土の流出を防ぐための土のうを作る学生たち



2023年3月
交流会での「そうめん炊き出し」の様子

2018年7月の西日本豪雨により被災した愛媛県宇和島市吉田町玉津地区。香川大では、発災2ヶ月後からネクストプログラム・防災士養成プログラムの参加学生を中心に被災地に駆けつけ、みかん農家を支援したことをきっかけに、今でも現地被災状況の視察や災害ボランティア活動を通して交流が続いています。

当初は、被災の状況を目の当たりにしながら、みかん園地や農道に溜まった土砂の撤去や土のう積みなどの作業を行っていましたが、時間の経過とともに災害復興作業に移行。災害直後の復旧活動を経験した学生も経験したことがない学生も、現地農家の方から当時の被災状況の話を聞き、復旧・復興工事を見学することで、災害からの復旧とは何かを知った上で被災地が復興していく様子を学んでいます。

2023年3月には、みかん農家及び玉津地区の方々に感謝を伝えたく、ボランティア活動のうち1日を交流の機会として、「小豆島そうめん」の炊き出しや子ども広場、交流カフェなど開催しました。参加者からは「一人ひとりの想いを知る

ことができ、心が温まった」と喜びの声をいただきました。さらに、同年7月、みかん農家の摘果作業を手伝うボランティア活動に教職員約30人が参加しました。今回が6回目の訪問となった大学院1年生で防災士の國土真希さん（巻頭P1）は、「豪雨から5年たちましたが、いまだに被災地では影響が続いていると感じます。私たちができることは小さなことかもしれませんが、少しでもみかん農家の方の力になればと思います」と話します。

被災の爪痕は施設や資金等のハード面だけではありません。繰り返し訪問することで、現地の方々の気持ちの移り変わりを伺い、寄り添うことで、「思いやり」という目に見えない優しさの連鎖が生まれ、ソフト面で復興の一助となっているのではないのでしょうか。災害とどう向き合つか、様々な観点から学べる活動です。

2023年7月の
活動報告は
こちら



防災ボランティア活動実績

- 2016年「平成28年熊本地震」（熊本県益城町、南阿蘇村他） ●2017年「平成29年7月九州北部豪雨」（福岡県朝倉市）、「台風18号」（香川県多度津町）
- 2018年「平成30年7月豪雨」（愛媛県西予市、宇和島市） ●2019年「令和元年東日本台風」（長野県豊能町）

上記の被災地で災害ボランティア活動等を実施。また、災害ボランティアセンター立ち上げ・運営訓練や、被災地住民との地域交流や被災地で提供可能な炊き出しメニューの考案を目的とした、調理手順の検討及び炊き出し研修等も実施している。